

sento & neighborhood journal

EBISUYU

せんとうとまち新聞



北区の記憶あつめ編 Vol.2

えびす湯

ABOUT

この事業は「北区政策提案協働事業」として、一般社団法人せんとうとまちが北区と協働し、令和5年度から3カ年計画で、北区の現役銭湯全23軒(令和5年現在)をめぐる。銭湯と周辺のまちの歴史や物語を聞き取り、広く共有して、多世代間の交流を促し、地域のコミュニティ再生へとつなげることを目指しています。

CONTENTS えびす湯紹介/記憶地図/住民かく語りき



不断の努力で紡がれた古き良き銭湯の佇まいと心意気

2代目と3代目が切り盛りする老舗銭湯

北区滝野川1丁目、飛鳥山公園のほど近くにある「えびす湯」。創業は1959年で、現在は2代目と、3代目の永田勇治さんが切り盛りしている老舗銭湯だ。

勇治さんによると、初代である祖父は新潟出身で、親戚が東京で銭湯を営んでいたこともあって上京。最初は浅草の銭湯で働いていたそうだが、その銭湯が関東大震災で全焼し、仕事を失いながらも方々で働いて資金を貯め、滝野川1丁目

当時はかなりの田舎町だったそうだが、昭和50年代生まれの勇治さんが物心がついてからは「マンションは増えたものの、主だった風景は変わっていない」とか。今や常連客の多くが70、80代になったが、それでも元気に通い続けてくれているという。また、サウナプールの追い風もあり、「5、6年くらい前から若いお客さんが増えているし、遠方から来てくれている方も目立ってきた」という。一方で「近所の銭湯がなくなってきたから、ちょっと遠いけどここまで通っている」というお客さんも。「そ



昔ながらの格式高い格天井が残る広々とした脱衣場。

代々受け継がれてきた銭湯を守り続ける



特徴的なタイルで作られたサウナも人気とか。

ういう話を耳にするたびに、できるだけ長く、この銭湯を営まなければと思う」と勇治さんは目を細める。

大通りに面しながらもやや奥まったところにあるため、少々分かりづらいが、えびす湯の宮造り建築と煙突は堂々たるものだ。ひとたび中に入ると、昔ながらの風情ある番台と天井が高く開放的な脱衣場に胸が躍る。ベルギー製とされる巨大な鏡やレトロな椅子を目にするうちに、昭和の時代にタイムスリップしたような気持ちにすらなる。実際、創業以来、コインランドリーを増設した以外にほとんど大きな改築は行っていないという。女湯の脱衣場には四季折々、花鳥風月の写真が飾られているが、聞けば、いずれも勇治さんが旅先などで撮影したものとのこと。「お客さんたちに少しでも寛いでほしい」という思いのあらわれだ。

惜しまぬ努力と常連への心意気

昔と同じように薪を燃料にしているのもえびす湯の特徴のひとつだ。何でも1970年代のオイルショックの頃に燃料を薪に切り替えて以降、ずっと薪を使い続けているという。銭湯の隣りには木材加工場と綺麗に整備された薪置き場があり、勇治さんは馴染みの解体屋などから廃材などを引き取り、それを電動のこぎりで次々と薪に加工していく。年末年始などで解体屋が休む日以外はこれが勇治さんの日課で「仕事の大半は薪づくり」と苦笑するが、それゆえに燃料代の高騰などの荒波を見事に乗り切ることができたそう。

また、勇治さんはこの古き良き建物を維持するために、日々の手入れを欠かさない。例えば雨漏りが生じたり、瓦がずれたりしても、自らすぐに修繕するという。



日々、廃材から薪を生み出すという店主の勇治さん。

せんとう情報 SENTO DATA

えびす湯



えびす湯 東京都北区滝野川1-1-20 JR京浜東北線「王子駅」から徒歩3分
15:00-24:00 定休日:月曜日(祝日は翌日休)

番台 サウナ 荷物一時預かり ペンキ絵 ランドリー 駐車場(無料)

※「記憶地図」は、一部ご近所の皆さまの記憶や思い出を元に作成しています。事実と異なる表記があるかもしれませんが、ご了承ください。

記憶地図

えびす湯編

ワークショップや近隣住民の方へのインタビューを通して見えてきたまちの記憶地図。かつての銭湯界隈のあたたかいまちの風景を想像しながら、湯上りに歩いてみましょう!

● 現在も営業中 ● 閉店

飛鳥山テラス

体に良いオーガニック食品や有機野菜を取り揃えたナチュラルマーケット。安全・安心なおいしいものからアロマや雑貨までオーナーこだわりの品々がギュギュッと並んでいる。カフェスペースも併設。

うな正

都電の駅前、交差点に面した場所に堂々と店を構える、創業からほぼ半世紀の鰻屋さん。若い頃から鰻一筋で修行を積んできた御店主が、毎朝4時から捌き仕込む。鰻のかば焼きは、注文が入ってから時間をかけてじっくり蒸し焼き上げる至高の一品。

本業理の



街のワイン屋さん TAJIMAYA

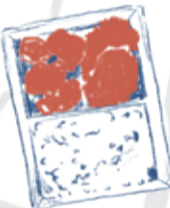
創業1912年(明治45年)。老舗の酒販店がルーツのワインショップ。「街のワイン屋さん」というキャッチコピー通り、まちの生活に根差しつつ、国内外の本格的なワインを楽しめる。

えびす湯

昔ながらの佇まいを残し、今も薪で湯を沸かしている。本郷通りに面しているためバスで速くからえびす湯を目指して来る常連客も多い。最近ではサウナを目的に来るお客や外国人の常連客も増えているとか。

肉のよねや

注文してからできたての惣菜を豪快にのせてくれるボリュームなお弁当が人気だった。



おばこ

チャーミングな女将さんが1人で切り盛りする気軽な小料理屋。店内には、カウンターだけではなく、女将さんが作った手芸雑貨やお客さんの贈り物などが所狭しと並んでおり、なんともアットホームな雰囲気。モーニングからカフェタイム、夜にはお酒とカラオケまで楽しめる。

逆川

逆川の名は地形の高低差に逆らって流れていたから。現在は暗渠になっている。

競争横町

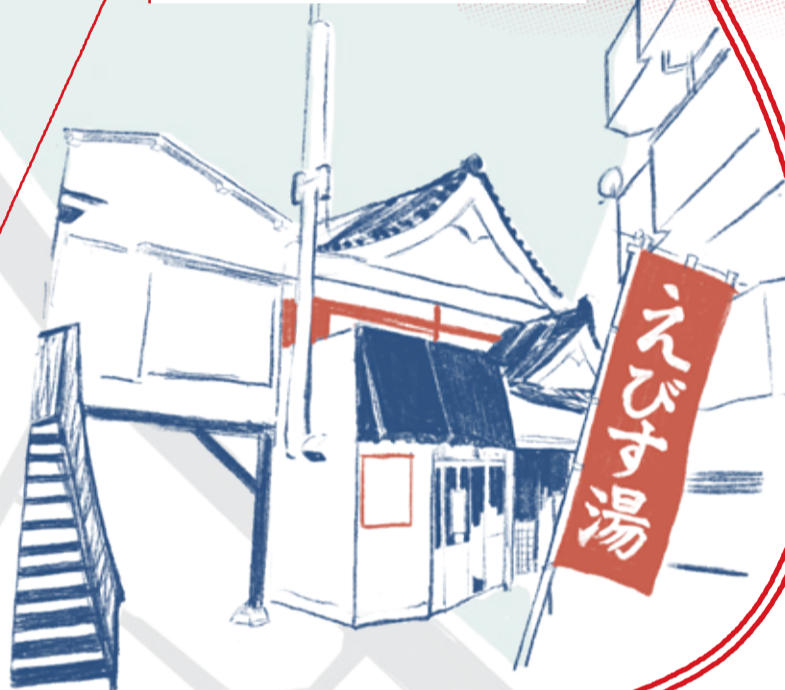
お客さんも競争しない物が買えなかったことから通称「競争横町」と呼ぶとか。都電も走っていた乗り換えポイントになっていたためお店も集中していたそう。



提供:北区飛鳥山博物館



飛鳥山公園



住民かく語りき

えびす湯周辺

わたしのせんととうとまち

— 北区の記憶あつめVol.2 えびす湯 —

7月21日、記憶集めトークイベントが実施された。これはえびす湯周辺のかつての写真や地図を見ながら地域の記憶を掘り起こしていこうというものだ。常連をはじめとした参加者に思い思いに語り合ってもらった。

まずは周囲の環境について、飛鳥山界隈の思い出が多数話題に上がった。例えば、都電のすぐそばにある飛鳥山商店街は通称「競争横町」と呼ばれているという。参加者によると「都電がすぐ側を走っていたのでお店も多く、お客さん同士で競争しないと物が買えないくらいのにぎわいだった」「買い物にももちろん、板橋方面に抜けるのにちょうど良い通路になっていた」「そう、それにしても飛鳥山界隈には狭い路地が多い。その点については「江戸時代以来の道幅が維持されているところが多いからではないか」といった声があった。

道といえば、以前にえびす湯の初代店主が「昔は馬が道端を歩いていた」と話していたという話題が浮上。「飛鳥山界隈は第二次世界大戦で空襲の被害に遭っているのだから、えびす湯が創業した昭和30年代も殺風景だったはず。馬が歩いていてもおかしくないと思う」「戦後復興の時期と重なっているから、都電と馬が並走している光景があったかもしれない」といった話で盛り上がった。

また、かつては飛鳥山公園以外にも自然が豊富に残っていたり、今や暗渠になっているところには逆川などの河川が流れていたという。「水がきれいな川が多かったおかげで、醸造試験所があったんだと思う」と語る参加者もいた。

えびす湯に遊びに来てね!



新で湯を沸かす銭湯経営者の暮らし — 永田勇治さん(えびす湯3代目店主) —
銭湯を営んでいると準備や掃除に忙しくて、休みはほとんどありません。特にうちの場合は昔から薪でお湯を沸かしているから、両親が学校の行事に来てくれたことなんて一度もありませんでした。振り返ってみると、私が幼稚園の頃からいまでは従業員がいて、私や姉の面倒をみてくれていました。それ以前には三助さんや、お客さんの子どもを預かったり服を着せたりする女中さんもいたようです。今だから薪の仕入れ先(解体屋など)からの連絡がいくつか分らないし、いきなりご近所さんから「今から廃材を持って行っていいか」と言われることもあるので、ほとんど無休状態です。だから私自身、プライベートな時間はあまりないし、旅行もほとんど行かないです。たまたま、写真撮るのが好きで、日帰り旅行には仕事の合間を縫って行くようにしています。これまでに北海道だけでも日帰り7回くらい行ったかな。

古い建物なので、あちこちにガタがきていますが、雨漏りの修理や瓦の葺き替えは自分でやっています。もともと得意だったわけじゃないんですが、YouTubeを参考にしよう見まねで覚えたんです。東日本大震災の時なんかは瓦がたかさんずれて大変でしたが、煙突と自分を命綱で結んで、何とかやり遂げることができました。そうやってコストを抑えることで、この建物を何とか維持していきたいですね。



Photo / Mari Okamoto



発行：一般社団法人 せんととうとまち

代表理事：栗生はるか 理事：サム・ホルデン / 三文字昌也 / 江口晋太郎 / 牧野徹 メンバー：福井彩香 / 渡邊勢士
編集・執筆：熊本鷹一 グラフィック：株式会社PIN DESIGN 菅原悠介 / 岡本茉莉 協力：東京都北区浴場組合 / 森田真央 / キタバ・ランドスケープ東京事務所
北区政策提案協働事業「銭湯を核とした多世代間の地域コミュニティ再生と記憶アーカイブによる歴史的・文化的まちづくり」(担当：北区政策経営部シティプロモーション推進担当課)にて制作。
一般社団法人せんととうとまちは、銭湯とその周辺のまちを共に考え、関係性を編み直しながら、銭湯をめぐる生活文化を再生・活性化していくことを目指しています。

活動支援の協賛・寄付を募集しています
https://bio.site/sentotomachi

